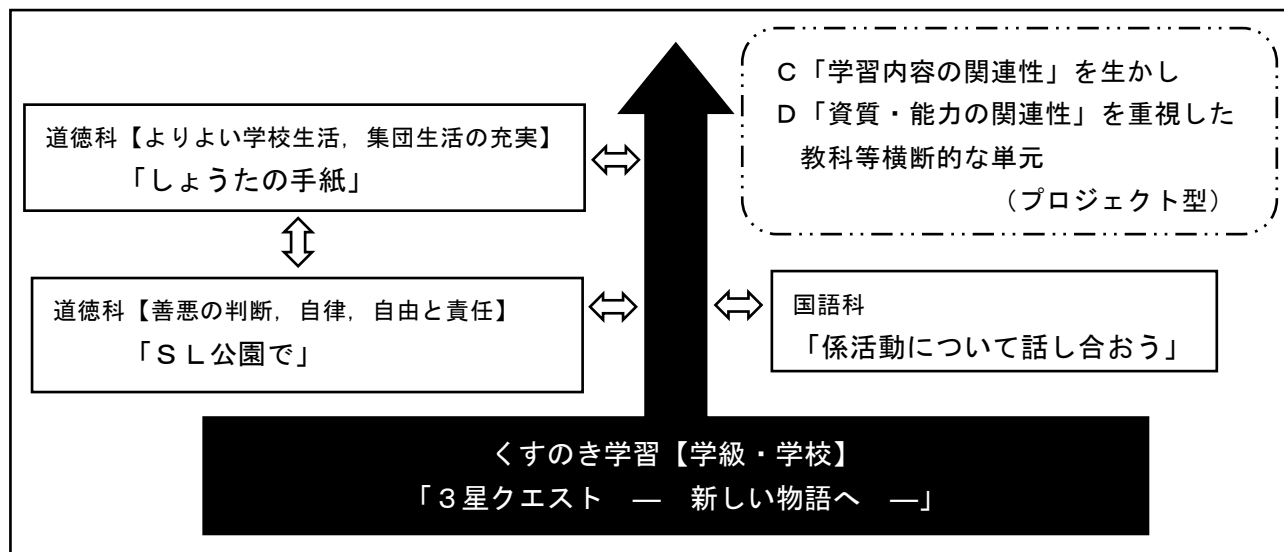


第3学年星組 くすのき学習【学級・学校】（＋国語科・道徳科）

「3星クエスト ― 新しい物語へ ― 」

指導者 森田 宏美

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、C「学習内容の関連性」を生かし、D「資質・能力の関連性」を重視した単元である。

ここで言う「学習内容」とは「内容項目」であり、「資質・能力」とは、くすのき学習【学級・学校】の「参画する態度」、国語科の「伝え合う力」、道徳科「自分らしくよりよく生きようとする」である。

本学級の子どもは、素直で明るく、一生懸命物事に取り組む。しかし、指示されたことはこなすが、自分たちで決めて実行しようとする自主性に乏しい一面も見られた。4月当初、「こんな学級にしたい」という子どもの思いや願いと「こんな子どもたちになってほしい」という教師や親の願いとをすり合わせ、「やる気 楽しく進んで 助け合い 笑顔つなぐ3星」と、学級の目当てを設定した。その目当ては、一年を通じて、学級・学校生活や学習活動での基盤となるものである。その目当てを基に、定期的に全員にアンケートをとり、学級の状態をみんなで共有し、子どもと共に今の学級を見詰め直し、話し合いを行いながら自分たちで問題を解決してきた。そうしたことを話し合う際に大切にすることは、国語科の「伝え合う力」である。自分の考えや思いを伝え、他者の考えを受け止めながら、子ども自身が話し合いを進めていくことによって、仲間意識も高くなり、子どもたちのアイデアを生かしながら、自主的に行うことができるようになってきた。

4年生を目前に控えた今、学級の終わりを意識する子どもも出てきている。達成感を感じて終わりたいと感じている子どもも多い。学級や自己の成長に対してはある程度達成感を感じているが、なぜ成長したのか、自分の経験を振り返って考えていることはできていない。そこで、学級の成長を探り、自分たちの成長のためには、楽しかったことだけでなく、努力したこと、辛かったこと、我慢したことなどが必要であったことを再認識し、経験した全てのことが自分の成長につながっていることに気付かせたい。そして、一人一人の成長が3星の成長につながっていることを認識させ、さらによりよいクラスになるために自分ができることは何かを考え、実践につなげていきたい。

本単元は、国語科で培った、質問をしたり感想を述べたりする力と進行に沿って伝え合い話し合う力を活用させる。また、道徳科で学んだいろいろな友達との協働や人間関係づくり、自分の生き方づくりなどをそれぞれの場面で思い起こさせ効果的に活用させる。そして、自分の考えを明らかにし、話し合った内容と関連付けながら考えを深めていくために有効な手立てとして、思考ツールを取り入れ、自己決定していく。そして、自分が決めたことを実践したあと、振り返りを行うことで達成感や充実感を感じ、学級や学校に参画する態度を培うことができるような単元構想をした。

3 単元のねらい

- 今年度の活動を想起し、自己や学級の成長を知り、満足感を持つ。
- 学級に所属していたことに対する有用感を持ち、自分ができることを自己決定する。

4 単元の展開（全7時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規 準	時間
出 合 い	今までどのような活動をしてきたの だろう。 ○ 自分たちの活動を振り返る。	● 学級への所属感や有用感を感じて いる。	1
追 究	自分たちの学級について考えよう。 ○ 「3星クエスト物語」を作成する。 ○ 3星の成長について考える。 ○ 自分たちがしたいこと、できることを 探る。	● 意欲的に物語を作成しようとして いる。 ● 友達の考えと自分の考えを比べな がら発表しようとしている。 ● 今までの活動を振り返り、満足感・ 達成感を持っている。 ● 他者への発信を意欲的に行ったり 他者の考えを聞いたりする中で、自 分ができることを自己決定する。	4 本 時 その 3
振 り 返 り	自分の活動はどうだったのだろう。 ○ 実現を目指して取り組んできたこと を、「自分物語」にまとめる。 ○ 友達の「自分物語」を読む。	● 自分や学級の成長を考えている。 ● 努力の成果を振り返り、新たな取 組みを考えている。	2

5 単元における指導と評価の工夫

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出 合 い	・ 自分たちの学級の活動に対して満足感を持っている子どもたちに「3星クエスト物語」作成の案があることを伝えることで、これからの学習活動に対しての関心・意欲を高める。
追 究	・ 子どもたち自身で作成の展開を考えさせることで、「自分ごと」として捉えさせ、より能動的な活動となるようにする。 ・ 学級全体の成長を探るために「3星クエスト物語」を作成する中で、自分たちの思いをそれぞれに発表し合い、成長過程を共通理解していく。 ・ 成長の糧をどのように役立てるかを考えさせ、具体的な方法を考えさせることで、内容もしっかりした目標を立てることができる。
振 り 返 り	・ 「自分物語」に整理することで個人として、また集団としての成果を振り返らせ、よりよい学級・学校づくりに参画させる。

6 本時の授業（3／7）

- (1) 日 時 平成31年2月1日（金）10:30～11:15
 (2) 場 所 3年星組教室
 (3) 目 標 自分たちの成長を感じ、よいラストを迎えられるように頑張ることを決める。
 (4) 準備物 アンケートの結果表、タブレット、プリント、発表道具、BGM
 (5) 展 開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 自分たちが学級づくりで感じたことを出し合う。	これまでの3星クエストで頑張ってきたときの思いを話そう。 ・ 係の活動を頑張ったよ。楽しかったよ。 ・ 代表の言葉をドキドキしたけど頑張ったよ。 ・ 運動会のプロジェクトを頑張ったよ。 ・ 問題は自分たちで話し合って決めたよ。 ・ 学年ドッジボールでは負けて悔しかった。 ・ 持久走大会は練習が辛かったよ。	○ 子どもの日記を紹介し、本時の学習の方向付けをする。 ○ 写真を見ながらその時の思いを話し、楽しいことだけでなく、辛いことや努力したことも自分たちの成長につながっていることを意識させる。
2 今の学級目標達成度について考える。	今の3星は学級目標をどこまで達成しているのだろう。 ・ 楽しいと感じている友達が多いから続けたい。 ・ 決まったことを実行していない人がいるから進んでができていない。 ・ 前よりも「進んで」ができると感じている友達が多い。うれしいな。 ・ 係活動を頑張っている友達が多い。 ・ 男女関係なく遊んでいるところがいい。 ・ 自分たちが決めたことを頑張って実行しようとしている。	● 活動を振り返ることで、学級への所属感や有用感を感じることができたか。[発言・様態]
3 3星として頑張りたいことを決める。	笑顔でラストを迎えられるように3星として何を頑張ればいいのか。 ・ 私は「やる気」を頑張りたい。 ・ 私はもっともっと「助け合い」がこのクラスには必要だと思う。 ・ このクラスがやる気があるクラスだからもっともっと「やる気」を伸ばしたい。	○ 事前にとったアンケートの内容を提示し、残りの3星について考える。 ○ 意見を伝え合う場面では子どもたちの思いを優先し、自由に発言させる。 ○ 友達の思いを聞いて3星に必要なことを考えさせる。
4 次時の学習を確認する。	自分ができることを考えよう。 ・ クラスのために自分は何を頑張れるかな。 ・ 「○○」に決まってよかった。こんなことを頑張ろうかな。 ・ 友達はどんなことをしよう、したいと思っているのかな。	○ 事前にとったアンケートの内容を提示し、残りの3星について考える。 ○ 意見を伝え合う場面では子どもたちの思いを優先し、自由に発言させる。 ○ 友達の思いを聞いて3星に必要なことを考えさせる。 ● 積極的に話し合い活動に参加し、これからの学級に必要なことを考えることができたか。 [発言・様態]

7 評価の具体的な方法

〈自己効力感〉が高まっている姿を評価する視点を、二つの欲求が満たされているか、資質・能力が高まっているかの二つを軸として考え、ワークシートの記述や活動時のつぶやき、学習後の成果物などから〈自己効力感〉の高まりを見取っていく。

(1) 「出会い」の場面における評価の視点と具体的な方法

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	自分たちの活動を振り返り、課題を発見する力	充実感が得られそうだと感じている。
目指す姿	○ 3星が頑張ってきたことや、そこからできることは何かを考えようとしている。 [発表・様態] 〔 ・この課題を解決したいな。 ・友達はよく頑張っているな。 〕 ○ 話合いに進んで参加しようとしている。 [発表・様態] 〔 ・話し合いたい。 ・友達に伝えたい。 〕	○ 3星をもっとよくしたいという気持ちになっている。 [発表・様態] 〔 ・楽しそう ・やってみたい ・考えてみたい ・頑張りたい 〕

(2) 「追究」の場面

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	課題に対する自分の考えを持ち、友達の考えを聞きながら、課題を解決する力	充実感を感じているかどうかと、人とつながるよさを感じているかどうか。
目指す姿	よりよい学級づくりのために、友達の考えを取り入れながら解決の方法を考えている。 [発表・記述・様態] 〔 ・自分の考えと友達の考えとを合体させるといいと思うな。 ・友達の意見はいい意見だから、取り入れたいな。 〕	よりよい学級づくりのための改善策を進んで考えている。 [記述・様態] 〔 ・していることがみんなのためになるといいな。 ・みんなが楽しいと思えるクラスにするためにはどうしたらいいのかな。 ・友達の意見を聞くと考えが広がるな。 〕

(3) 「振り返り」の場面

	身に付けた資質・能力を生かしたり発揮したりしているかどうか	
視点	よりよい学級づくりに参画したいという思いが持てたか。	
目指す姿	満足感や充実感を感じている。 [記述・様態] 〔 ・自分の考えがよりよい学級づくりにつながるといいな。 ・決まったら、自分のすることを具体的に考え、実践しよう。 ・友達は頑張っていたんだな。 ・自分も頑張りたいな。 〕	